

視聴環境広げ新年オンライン演説会成功

「3.20」は150人めざす 大阪市此花区・瀬戸区委員長に聞く

大阪市此花区でのオンライン演説会の経験について、大阪府委員会が瀬戸一正区委員長から聞き取った内容を紹介しします。

① オンライン演説会をなぜ取り組んだか？

昨年の12月にオンラインで「大阪市をよくする会」の学習会をやり、その後、宮本岳志前衆院議員（近畿比例・大阪5区予定候補）の演説会など3回やりました。そんな中、区民ホールが使えない、コロナで各地の新春の集いの中止が相次ぐが、演説会にすれば広く一般市民へアピールになる—の2つの理由から新年演説会（1月31日）をオンラインで行うことになりました。

② 取り組みや苦労

3回のオンライン演説会は、最初は流すだけに一生懸命でしたが、新年演説会ではどれだけ見てもらえるかが課題になりました。ネット環境のないところでどうするか？と壁にあたりましたが、テザリング（WiFiなどでパソコンなどをインターネットなどに接続すること）を活用しようとなりました。

□各支部の取り組み

• 例えば西島センターでは、パソコンがなく区でパソコンを準備。はじめは現地ですることができる人がいないので瀬戸さんがテザリングしていましたがその後、40代の支部委員がテザリングをできることがわかり、今はパソコンは貸しているが、つなぐのはその人がやるようになりました。

• 梅香でも初めは困難がありました。しかしある支部委員の家の離れに集まることができる、娘さん（他地域の党员）がパソコンも持っており、自分の携帯でテザリングしてくれて7人が視聴しました。

• 区の相談所長は自分の家にネット環境があり、それならと他の人も呼んで会場にしました。

• 他にも思わぬ所で、党员の子どもが見かねて教えてくれるなど経験が広がりました。

• 西九条地域では、後援会員に封筒に新年演説会ビラと説明書をいれて訪問・対話。対話では「(YouTubeに)入り方がわからない」という後援会員には丁寧に説明しました。結果4人の後援会員が視聴してくれました。

まとめるとネット環境小会場5カ所33人、テザリング小会場2カ所12人、個人スマホ14人です。

③ 成果

梅香でも西島でも西九条でも、視聴した人は政治的に元気になっています。新年演説会の経験でも、取り組む中で地域に援助できる人が生まれるし、なによりオンラインなので若い世代と結びつくツールになります。

④ 今後の課題

• 各支部長がスマホの操作を教えることまではしていない。それができるようにすること。

• 高齢者スマホの多くはテザリングはできない。ギガ数も足りない。

※ 北海道の経験にあるように、レンタルWi-Fiを試してみようと相談になっている。

⑤ 3.20にむけて 小規模会場をどう増やすか

ネット環境のあるところ、個人でみてもらうというよりも、小規模でみてもらう場所をどう増やすか。少なくとも支部は後1~2カ所はできるはず。同時に西九条でやったように、自分で視聴する人もさらに増やす働きかけをしたい。

⑥ オンラインは「特別期間」にどうつながるのか？

宣伝作戦として、「政治を変える日本共産党」の姿を見せる大きな力になると感じています。

21近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 8(2021.2.14)